

# Alibaba Cloud Dedicated Host

クイックスタート

Document Version20190829

# 目次

---

1 DDH の作成.....	1
2 DDH 上の ECS インスタンスの作成.....	3

# 1 DDH の作成

ECS コンソールで DDH を作成する方法を説明します。

- ・ [Alibaba Cloud に登録](#)します。
- ・ [支払い方法を追加](#)します。

ECS コンソールで DDH を作成できます。



注：

Dedicated Host はベータテスト中です。 トライアル版を申請するには、[チケットを起票](#)して、サポートセンターへお問い合わせください。

1. [ECS コンソール](#)にログインします。
2. 左側のナビゲーションウィンドウで、[Dedicated Host] をクリックします。
3. Dedicated Host リストページで、[Dedicated Host の作成] をクリックします。
4. [作成] ページで、次の設定を行います。
  - a) [課金方法]: [サブスクリプション] を選択します。
  - b) [リージョン]: リージョンの選択方法については、「[リージョンとゾーン](#)」をご参照ください。
  - c) [Dedicated Host タイプ] を選択し、有効な Dedicated Host 名を入力し、数量を指定します。詳細は、「[Dedicated Host タイプ](#)」をご参照ください。



注：

Dedicated Host タイプを選択する際、次の点を考慮してください。

- ・ 選択する Dedicated Host タイプによって、DDH でホストされる ECS インスタンスの構成が決まります。
- ・ ローカル SSD ディスクを使用する DDH 間では、ECS インスタンスを移行できません。

- d) サブスクリプション DDH を作成するには、[購入サイクル] を選択し、[自動更新] スイッチをオンにするかどうかを決定します。
  - e) Dedicated Host 利用規約の内容を確認します。
  - f) 料金を確認します。
  - g) [注文の作成] をクリックします。
5. [注文の作成] ダイアログボックスで、設定を確認して [OK] をクリックします。

6. サブスクリプション DDH を作成するには、プロンプトに従って支払い、DDH サービスを有効にします。

Dedicated Host ページに戻り、新しい DDH を表示します。DDH の作成には数分かかることがあります。表示されない場合は、ページをリフレッシュしてください。DDH のステータスが実行中になると、使用可能です。

次の操作

- ・ [#unique\\_4](#)
- ・ [#unique\\_5](#)

## 2 DDH 上の ECS インスタンスの作成

---

DDH を指定して ECS インスタンスを作成できますが、作成できるのは VPC に接続された ECS インスタンスに限られます。

特定の DDH 上に ECS インスタンスを作成する前に、次の手順を実行します。

- ・ [#unique\\_7](#)
- ・ 中国本土内のリージョンに ECS インスタンスを作成する場合は、[実名登録](#)を行います。
- ・ DDH があるリージョンで、[VPC と VSwitch の作成](#)を行います。
- ・ 自動的に作成されるデフォルトのセキュリティグループを使用しない場合は、[セキュリティグループの作成とセキュリティグループルールの追加](#)を行う必要があります。詳細については、「[デフォルトのセキュリティグループルール](#)」をご参照ください。
- ・ キーペア認証される Linux インスタンスを作成するためには、[SSH キーペアの作成](#)を行います。
- ・ [ユーザー定義データ](#)を作成して、インスタンスの起動動作をカスタマイズしたり、ユーザー定義データを渡すことができます。
- ・ [コンソールでのインスタンス RAM ロールの使用](#)を行います。

DDH を指定して、ECS インスタンスを作成できます。VPC に接続された ECS インスタンスのみ作成できます。DDH 上の ECS インスタンスと共有クラウドホスティングサーバー上の ECS インスタンスの機能上の違いについては、「[異なるホスト上の ECS 機能の比較](#)」をご参照ください。

1. [\[ECS コンソール\]](#) にログインします。
2. 左側のナビゲーションウィンドウで、[\[Dedicated Host\]](#) をクリックします。
3. リージョンを選択します。
4. DDH を選択し、[\[インスタンスの作成\]](#) をクリックして、DDH 上で ECS インスタンスの作成を開始します。

5. 次に示す手順で、基本設定を行います。

a) [Dedicated Host]: デフォルトで表示される DDH を使用します。または、別の DDH を選択することもできます。

b) [課金方法]: ECS インスタンスの請求方法は、DDH によって決まります。

サブスクリプション方式の DDH では、サブスクリプション方式の ECS と従量課金方式の ECS インスタンスの両方を利用できます。

c) [リージョン]: ECS インスタンスのリージョンとゾーンは、選択した DDH によって決まります。

d) ECS インスタンスタイプを選択し、インスタンス数を指定します。ECS インスタンスとして適切なタイプは、選択した DDH タイプと利用可能なリソースによって決まります。詳細は、「[Dedicated Host タイプ](#)」をご参照ください。

e) パブリックイメージ、カスタムイメージ、共有イメージ、マーケットプレースイメージのいずれかを選択できます。



注:

- ・ SSH キーペアを使用するには、Linux OS イメージを選択します。
- ・ ユーザー定義データを使用する場合は、ユーザー定義データのリストに表示されるイメージから選択します。詳細については、「[コンソールでインスタンス RAM ロールを使用](#)」をご参照ください。

f) ストレージを選択します。

- ・ [システムディスク]: 必須 イメージにはシステムディスクが必要です。システムディスクのクラウドディスクカテゴリとサイズを指定します。
  - [クラウドディスクカテゴリ]: 選択したリージョンの任意のクラウドディスクカテゴリを選択できます。
  - デフォルトのサイズ範囲は [40, 500] GiB です。選択したイメージが 40 GiB より大きい場合、デフォルトのサイズ範囲は [ImageSize, 500] GiB です。使用可能なサイズの範囲は、次の表に示すように、選択したイメージによって異なります。

オペレーティングシステム	システムディスク容量
Linux (CoreOSを除く) FreeBSD	[max{40, ImageSize}, 500] GiB パブリックイメージリストでは、Ubuntu 14.04 32-bit、Ubuntu 16.04 32-bit、CentOS 6.8 32-bit が、容量 40 GiB になります。

オペレーティングシステム	システムディスク容量
CoreOS	[max{40, ImageSize}, 500] GiB
Windows	[max{40, ImageSize}, 500] GiB

- ・ [データディスク]: 任意 今すぐデータディスクを追加するには、データディスクのカテゴリ、サイズ、数量を指定します。また、ディスクを暗号化するかどうかを指定します。空のデータディスクを作成したり、スナップショットからデータディスクを作成することができます。最大 16 個のデータディスクを追加できます。



注:

ここで追加するデータディスクには、次の機能があります。

- ここに追加したデータディスクは、インスタンスと同じ方式で課金されます。
- サブスクリプション方式のデータディスクは、インスタンスと共にリリースされます。従量課金方式のデータディスクは、インスタンスと共にリリースされるように設定できます。

- ・ ローカルディスクを持つインスタンスタイプ (i2 ファミリーのインスタンスタイプなど) を選択した場合、ローカルストレージ情報が表示されます。選択したインスタンスタイプによって決定されるローカルストレージの数量またはカテゴリを変更することはできません。詳細については、「[インスタンスタイプファミリー](#)」をご参照ください。

6. [次へ: ネットワーク] をクリックして、ネットワークおよびセキュリティグループを設定します。

a. [ネットワークの選択]: デフォルトの「VPC (Virtual Private Cloud)」を使用します。

VPC と VSwitch を選択する必要があります。VPC や VSwitch がいない場合は、デフォルト値を使用できます。

b. インターネット帯域幅を設定します。

- ・ インスタンスにパブリックIPアドレスを割り当てるには、[パブリック IP の割り当て]、[トラフィックごとに課金] の順に選択し、帯域幅の値を指定します。インスタンスに割り当てられたパブリック IP アドレスをアンバインドすることはできません。ネットワーク課金の詳細については、「[ネットワーク帯域幅の料金](#)」をご参照ください。
- ・ インターネットアクセスにパブリック IP (EIP) アドレスを使用する場合、[パブリック IP の割り当て] を選択しないでください。

c. ビジネス運用に必要なルールがすべて設定されたセキュリティグループを選択します。



注:

デフォルトのセキュリティグループを使用し、独自のルールを追加することもできます。詳細については、「[デフォルトのセキュリティグループルール](#)」をご参照ください。

- d. Elastic Network Interfaceを追加します。選択したインスタンスタイプが Elastic Network Interface をサポートしている場合は、追加して VSwitch を指定できます。



注：

デフォルトでは、Elastic Network Interface はインスタンスとともにリリースされます。ECS コンソールまたは [DetachNetworkInterface](#) インターフェイスを使用して、インスタンスからネットワークインターフェイスを切り離すことができます。

7. オプション: [次へ: システム設定] をクリックして、以下の設定を行います。

- ・ [認証にログイン] を選択して設定します。今すぐ設定することも、[あとで設定] を選択して、インスタンスの作成後に設定することもできます。イメージに基づいて認証情報を選択します。
  - Linux: ログイン認証としてパスワードまたは SSH キーペアを選択できます。
  - Windows: ログイン認証としてパスワードのみ選択できます。
- ・ ECS コンソールに表示されるインスタンス名と、ゲスト OS 内に表示されるホスト名を指定します。
- ・ 詳細設定を行います。
  - [インスタンス RAM ロール]: インスタンスに RAM ロールを割り当てます。
  - [ユーザー定義データ]: インスタンスの起動時の動作を設定したり、インスタンスにデータを渡します。

8. オプション: [次へ: グループ化] をクリックします。

複数のインスタンスがある場合は、インスタンスにタグを追加して、今後の管理を簡素化できます。

9. 注文を確認します。

- ・ [選択された設定] ウィンドウで、全ての設定を確認します。設定を変更するには、[設定の編集] アイコンをクリックします。
- ・ 従量課金方式のインスタンスを作成する場合、[自動リリーススケジュール] を設定します。
- ・ サブスクリプション方式のインスタンスを作成する場合、購入サイクルを指定し、[自動更新] を選択します。



注：

サブスクリプション方式の ECS インスタンスの有効期限は、選択した DDH の有効期限よりも後にすることはできません。

- ・ インスタンスの料金を確認します。インスタンス料金は、システムディスク、データディスク (ある場合)、およびパブリックトラフィック料金の合計です。
- ・ [ECS サービス条件と製品サービス条件] の内容を確認します。

10.[オーダーの作成] をクリックします。

インスタンスが作成されたら、[ECS コンソール] をクリックします。ECS コンソールに戻って、作成された ECS インスタンスを表示します。[インスタンス] ページで、新しく作成したインスタンスのインスタンス ID、パブリック IP アドレス、およびプライベート IP アドレスを参照できます。[ディスプレイ項目の設定] を設定すると、インスタンスがホストされている Dedicated Host をインスタンスリストに表示できます。



注:

[ディスプレイ項目の設定] についての詳細は、「[DDH 間での ECS インスタンスの移行](#)」をご参照ください。

- ・ ファイル転送用のインスタンスに FTP サイトを作成できます。詳細は、「[Windows ECS インスタンスに FTP サイトを構築](#)」をご参照ください。
- ・ インスタンス作成後のセキュリティを確保するため、セキュリティの状況確認と設定を次の通り実行することをお勧めします。
  - Linux インスタンスの場合: 「[Linux オペレーティングシステムのセキュリティ強化](#)」をご参照ください。
  - Windows インスタンスの場合: 「[Windows オペレーティングシステムのセキュリティ強化](#)」をご参照ください。
- ・ インスタンスと一緒にデータディスクを作成する場合は、ディスクを複数のパーティションに分割して、パーティションをフォーマットする必要があります。Linux OS を基盤としたインスタンスの場合は、「[Linux インスタンス用のデータディスクのフォーマット](#)」をご参照ください。Windows OS を基盤としたインスタンスの場合は、「[Windows インスタンス用のデータディスクのフォーマット](#)」をご参照ください。